

群馬県富岡市や長野県岡谷市と共に輸出用生糸の一大産地として栄えた。全盛の大正時代には釜数約6000、工女たち従業者数は7000人を超えていたとされ、中心市街地の中町や上町の菓子屋、小間物、呉服屋などは工女相手にぎわった。東京や横浜から生糸の買い付け商人が多く訪れ、料理屋や芸妓屋は大いに繁盛したようだ。しかし、昭和4年からの世界恐慌の影響で製糸業は一気に衰退し、昭和40年頃までにほとんどの工場が廃業した。第二次大戦後、昭和4年から昭和6年にかけては大規模な製糸工場跡地に電子・電子機器関連の疎開工場やブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。



まゆ蔵があつた旧製糸工場



現在は、長野市ベッドタウンとしても発展しているが、明治から昭和初期までは長野盆地東部の千曲川を挟んだ長野市の対岸にリンクやブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。

千曲川を跨ぐ橋は大規模な製糸工場跡地に電子・電子機器関連の疎開工場やブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。

### 「蔵の町」整備に市が補助

長野駅から長野電鉄で約30分、長野盆地東部の千曲川を跨んだ長野市の対岸にリンクやブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。

現在は、長野市ベッドタウンとしても発展しているが、明治から昭和初期までは長野盆地東部の千曲川を

千曲川を跨ぐ橋は大規模な製糸工場跡地に電子・電子機器関連の疎開工場やブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。

## 「蔵の町」整備に市が補助

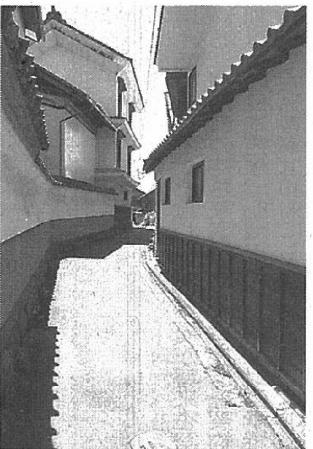
が定着したことから、工業都市へと変貌を遂げ、桑畑はりんごを中心とした果樹園に変化していった。この影響で製糸業は一気に衰退し、昭和40年頃までにほとんどの工場が廃業した。第二次大戦後、昭和4年から昭和6年にかけては大規模な製糸工場跡地に電子・電子機器関連の疎開工場やブドウ等の果樹と機械・電子機器等の工業を中心とした農工業都市、須坂市がある。

須坂の製糸業は、明治初期に水車の動力で糸車を回す器具が導入されたことによるものである。當時の工女が暮らし始めた寄宿舎や飯場、味噌蔵などを残して

## ~文化的歴史的所産を巡る~ 『残したい情景』

### 第13回 長野県須坂市

一般財団法人 日本不動産研究所



小路を挟み製糸工場の蔵が建ち並ぶ



旧製糸工場の中を流れる裏川水路。現在はU字溝が据え付けられている

須坂の街を歩いてみると、町並みなど、製糸産業盛期

裏川用水が発達

と大きく発展した。既に江戸時代から精米や油を絞るため扇状地の急な勾配を利用して千曲川の支流から引いた裏川用水（道路に面した屋敷の裏を通るので裏川用水と呼ばれた）が整備されており、その水力が利用できたことが大きい。

徐々に失われていったが、藏

がゲストハウスとして再

生され、空き家が店舗として利用されるケースも増えては

いるが、一方で商店経営者の

高齢化や後継者不足、閉鎖店

の增加等により、中心市街

並みの環境整備事業等も進め

たことから、今では「蔵の町

信州須坂」として知られるようになってきた。

市では、歴史的建造物が多く残っている。中には敷地内に

産として広く認識され、保存と再評価、更には観光資源と

がちであるが、貴重な歴史遺産として広く認識され、保存と再評価、更には観光資源として生かしていくことが大事である。

市では、歴史的建造物が多く残っている。中には敷地内に

ある。これは、製糸家の屋敷を利用が裏川用水を利用した水車小屋を中心に工場と母屋や製糸関連の施設が敷地内に分散することなく配置されていることである。しかし、製糸産業繁榮の歴史を伝えるまゆ蔵に代

りがしのばれる歴史的な町並みも、普段の生活の中では見慣れた風景として見過ごされ

たこと、建物が取り壊されず長く利用されてきたのではないかといわれている。

往時の活気に満ちた繁栄があ

ったこと、職人たちが腕を競った確かな技と職人魂は後世に伝えたい

美しさ、製糸家の求めに応じて表される土蔵造りの堅牢さや

地が活力をなくし、古い建物

が徐々に失われていく状況下

にある。しかし、製糸産業繁

榮の歴史を伝えるまゆ蔵に代

わる風景として見過ごされ

たと思われる大壁造りの豪壮な製糸家の構えや町屋の蔵の町並みなど、製糸産業隆盛期

動産鑑定士・塙田賢治